



## 明治百五十年

今から百五十年前の旧暦八月二十七日。大政奉還や戊辰戦争などにより延期されていた明治天皇さまの即位の礼が、京都御所の紫宸殿にて挙行されました。

この即位礼に際し、明治天皇さまより「古典を考証し、唐の模倣ではない庶政一新のときに相応しい皇位継承の典儀を策定しよう」と、輔相の岩倉具視、神祇官副知事の亀井茲監らに命じられ、結果、調度品から唐風のもの排除され、即位の装束も禮服と呼ばれる中国風のものではなく、平安時代に形作られた束帯姿(雖人形の男雛のような装束)となり、現在私達がみる即位礼の形式となりました。

この時に制定された束帯こそが、当宮の主祭神、嵯峨天皇さまが制定された天皇陛下のみに許される黄櫨染という色で染め上げられた「黄櫨染御袍」という束帯であり、これこそが明治の人々が思い描いた「日本の姿」でした。明治の出發は国風文化の基礎となった平安時代に重きを置いていたようです。

また、この明治天皇さまより一世一元の制が制定され、それまでは御代替わりや、吉祥、凶事、革年の都度、元号が改元されていましたが、数年ごとに改元される年もあり、庶民に混乱を来していた事を鑑み、明治より一代の天皇につき一つの元号と定められました。そしてその元号がそのまま天皇陛下の追号となつた事も大きな変化でした。

「西洋列強に並ぶ」という大目的の為、邁進した日本の近代化。その始まりの時から新時代に臨む意気込みが伝わるようです。



## 大阪北部地震、七月豪雨への義援金

茶屋町の当宮御旅社では、東日本大震災より、社頭に義援箱を設置し、義援金を募っておりませんが、今夏の各地の被害の大きさに接し、今後、集まった義援金は東日本大震災などの地震被害だけではなく、各地の災害地へのお見舞いとして拠出して参りたいと思います。引き続き皆様のお心からのお支えの義援金をお願いします。



## 御本社梅樹の衰弱について

数年前から、当宮御本社の梅の木が衰弱してきておりましたが、今夏のあまりもの暑さによるものか、またはカミキリムシなどの虫害によるものか現状判断出来ませんが、急激に樹勢が弱っております。元来山地に生える木である梅は、暑さに弱く、特に砂地である梅田では生育は厳しい上、老木である事もあり、これほどに弱ってしまいますと、下手に施肥などをしますと枯死しかねません為、現状、水やりのみで見守っております。ですので、神社側の確認を取らずに勝手な施肥などはされないようお願いいたします。



## 御即位のはなし 齋田志定

平成の御代から新しき御代への御代替わりを控え、四月まで、御即位に関するお話を掲載してまいります。**齋田志定の儀 悠紀(ゆき)・主基(すき)** 賢所奉告を済ませられると、次に新しい天皇陛下となつて執り行う事になる収穫感謝のお祭りである新嘗祭。特に新しい天皇陛下が初めて執り行う場合は大嘗祭(だいじょうさい)といい、天皇陛下一世一代の大祭祀(大祀)です。

このお祭りでお供えする新穀を収穫する田んぼを齋田といい、京都を中心に日本を東西に分け、東の方を悠紀(即ち「行き」)、西の方を主基(即ち「過ぎ」と呼びならわし、東西それぞれの都道府県の中から、卜定(占い)によって、その齋田となる地域が決定されます。

今上陛下の御即位に伴う齋田点定の際は、悠紀地方は秋田県、主基地方は大分県が選ばれました。皇室と稲作の深い関係を示す儀式です。

## 今月の暦

【祭祀】 北野祭遥拝式(四日)：全国天満宮の総本社である京都 北野天満宮の例祭を遥拝

【節気】 立秋(七日)：暦の上では秋となる。この日から残暑処暑廿三日)：暑さの峠を過ぎる頃。台風特異日

【雑節】 お盆(十三〜十六日)：先祖供養。日本独特のもの

【大安】 八月五日、十五日、二十一日、二十七日

【祝日】 山の日(十一日)

【忌日】 広島原爆忌(六日)、長崎原爆忌(九日)、終戦の日(十五日)

## 網敷天神社SNS、地図サイト

